

新たな柱となる事業の拡大に向け、シナリオ・戦略を構築！

会社名 有限会社田嶋畜産
 所在地 佐賀県藤津郡太良町大字糸岐6810
 従業員 29名
 資本金 500万円
 売上高 非公開
 業種 食肉加工卸売業



支援を受けるにあたって掲げた事業上の目標

Before

- 工場新設や直販所の設置を機に、これまでの主力事業である食肉卸に加え、ハム・ソーセージ等の食肉加工食品事業の拡大を加速していくこと。
- 注力していく事業(プレミアムハム・ソーセージの生産・販売)の市場動向や顧客、競合の理解を深め、事業戦略・ブランド戦略・マーケティング戦略を整備すること。

After

- 注力事業における、核となる商品カテゴリーを設定し、その製品の供給体制などを含んだ事業戦略や、マーケティング戦略の策定が進んだ。
- ブランド戦略を検討するとともに、ネーミングやラベルの刷新など、ブランドの再構築が進んだ。

今後の事業展開の展望

Future

- 設定した売上げ目標の達成に向けて、企業ブランド、事業ブランド、商品ブランドに関する、商標出願の手続を進めるとともに、SNSを用いた情報発信や販促活動を展開していく。

加速的支援を受けた事業や商材



大切にしているのは「素材の質」

食肉センターから車で3分の場所に工場があり、新鮮な佐賀長崎産の豚肉が仕入れられる恵まれた環境です。
確かな眼を持つ職人が、厳選した良質の豚肉を使い素材の食感と味を活かしたハム・ソーセージを手造りしています。

田嶋畜産(田嶋ハム工房・シャルキュティエ)は、国産豚肉の卸売業を長年営んでおり、豚肉の抜骨整形から加工までを一貫体制で実施。

経験に基づく確かな目で素材の質にこだわり、佐賀・長崎を中心とした九州産豚肉を使用し、保存料、合成着色料無添加のハム・ソーセージを製造している。

【出典】有限会社田嶋畜産

<https://www.big-advance.site/c/183/1462>



加速的支援を実施するにあたって整理した課題

取り組んだ課題	課題に取り組んだ背景・理由
事業戦略の検討	注力していく事業(プレミアムハム・ソーセージの生産・販売)における、市場動向や顧客、競合について、十分な情報を把握していおらず、事業の方針や取り組み内容が詳細に定まっていなかった。
ブランド戦略・マーケティング戦略の検討	製法や地域といった特徴をブランドの要素として更に発信していく余地があったと同時に、イベント企画や顧客・消費者コミュニケーション力、情報発信のスキル強化が必要だった。
事業戦略を踏まえた知財戦略の検討	自社製品のブランド確立を図るとともに「全国展開」を見据えており、商標等の模倣や他者権利の侵害を予防する措置を講じておく必要があった。
社内体制の整備	異動を希望する従業員への足元の対応を行うとともに、食肉加工食品事業の担当者を確保する必要があった。また、BtoC向けの広報・販路開拓のスキル獲得が求められていた。



加速的支援を通じて受けた支援と支援を通じてできるようになったこと

支援を受けた事項	支援を通じてできるようになったこと	活用専門家
事業戦略の検討	<ul style="list-style-type: none"> 注力事業における、核となる商品カテゴリーを設定。 今後の核となる製品の供給体制などを含んだ事業戦略や、マーケティング戦略の策定が進んだ。 社内体制を見直し、注力事業にも専念できる環境を整備。 	中小企業診断士 経営士 弁理士
ブランド戦略・マーケティング戦略の検討	<ul style="list-style-type: none"> ブランド戦略を検討するとともに、ネーミングやラベルの刷新など、ブランドの再構築が進んだ。 ネーミング会議やSNS活用に関するミーティングなどに従業員が参画することで、従業員のスキルや知的財産の意識の高まりにつながった。 	弁理士 ブランド専門家 コピーライター PR動画専門家
事業戦略を踏まえた知財戦略の検討	<ul style="list-style-type: none"> 商標となりえるネーミングやデザインの検討が行われ、出願手続を進める道筋も示された。 商標等の知財紛争を回避する意識が醸成された。 	弁理士 中小企業診断士
社内体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> SNSを用いた情報発信や販促活動を展開していくための基礎知識が担当者に蓄積された。 カイゼン活動の観点で、加工工場をより効率的に運営できるようなポイントを習得できた。 	経営士 中小企業診断士

支援チーム紹介

主担当専門家:弁理士 押久保政彦、経営士 吉栖康浩

活用専門家:中小企業診断士、ブランド専門家、コピーライター、PR動画専門家

知財総合支援窓口担当者:佐賀県知財総合支援窓口 塚島誠一郎

PO(プログラムオフィサー):喜多克己